

【入選】「いつもの給食」

梨の里小学校 野村 真衣

私は、今まであまり給食が好きではなく、毎日、たくさん給食を減らしていました。理由は、「量が多い」「きらいな食べ物がある」とかわがままなことでした。その時は、給食は残しても別に良いと思っていました。なので、食べ物の大切さについて考えることも気づくこともありませんでした。

けれど、ある日、家でお母さんと給食の話をしました。

「真衣ちゃんは給食をちゃんと食べてるの。」

とお母さんが聞いてきました。私は、

「たまに減らしてる。」

と「毎日」を「たまに」と少しうそをつきました。きつと「毎日減らしてる。」と答えるとおこられてしまうからです。すると、お母さんが、

「給食は、バランスがとれていておいしく作ってくれているんだよ。だから、ありがたいたいことなんだよ。」と言われました。その時は、「ふうん。」と思っただけで、あまり関心を持ってませんでした。

けれど、学校の学級通信で「給食の時間が始まると、十人くらいの子がどどつと前に来て、給食を減らしているの残念な気持ちになります。食べるものがなくて苦しんでいる人が、世界に八億人います。日本では

食べ物の三分の一が捨てられています。食べ物を捨てることを、『フードロス』といいます。」と書いてありました。私は、それを読んで今まで当たり前のように食べ物をそまつにしていた自分に対してくやしくなり、心もいたみました。それに、初めて聞いた「フードロス」に関心を持ちました。

私は、そこで小学校を卒業するまでにきらいな食べ物をなくして、給食だけではなく、家でも食べ物を残さないという目標をたてました。私一人が心がけるだけでも、少しだけど、「フードロス」はなくなるからです。けれど、初めは苦戦しました。今までの自分を変えるのは、難しかったです。どうしても、残したくなってしまうたり、全て食べることができなかつたりしました。なので、きらいな食べ物をこくふくするために、私の苦手なきのこを食べてみました。けれど、やっぱり好きではない味でした。

それから、まだきのこをだんだんこくふくしてきました。それに、今ではほぼ毎日給食も家でも、残さず食べています。私は、あの時に「フードロス」を知ったからこそ、今の自分になれました。だからと言って、私はまだ満足できていません。私は、いつか世界から「フードロス」を消したいです。